

No	提 案 名	提案団体名		
		代表者氏名	所 属	
14	みんなで創る花と緑の LRT	宇都宮共和大学 シティライフ学部 山島ゼミ+都市アメニティ研究会		
		福田 好古	宇都宮共和大学シティライフ学部	
			指 導 教 員 氏 名	山島 哲夫

1 提案の要旨

私たちの提案は、「みんなで創る花と緑の LRT」である。今年度、宇都宮市から与えられたテーマ「私たちが創る 宇都宮の未来」を考える中で、これから宇都宮の未来を創っていくことになる LRT を、より魅力的にするための提案を行うこととした。

宇都宮の市街地は街路樹などの緑が少なく、枝葉を短く伐採してしまうことも少なくない。これは、宇都宮のまちなか景観の魅力を減少させている要因ともなっている。私たちの提案は、LRT 建設という大きなプロジェクトを活用して、まちを魅力的に再構成していく狙いもある。宇都宮や栃木のイメージというと、餃子、イチゴ等が浮かぶが、交通や景観に対する評価はあまり聞かない。物産だけでなく、LRT を、世界に誇れる魅力的なものにすることによって、選ばれるまち宇都宮の実現につなげることができる、と考えた。

また、私たちはこの LRT 建設は、まちづくりにおける、行政、事業者と市民の協働のまたとない機会であるにとらえ、LRT の沿線、停車駅、トランジットセンター近くの住民や企業、志のある市民が誇りをもって LRT に長く関わっていくための方策について考えた。

具体的な提案としては、風景を改善するために、LRT の沿線を花や緑で彩ることにした。まちなかのスペースが十分でない沿線には、フラワーポットやハンギングバスケット等を歩道上などに飾り、面積の余裕のある沿線や停車駅には花壇を置き、花や香りも楽しめる樹木などを植える。更に、トランジットセンターは、それぞれテーマを決め、シンボルツリーを植え、地元の住民や市民、周辺企業の就業者なども気楽に過ごすことができる場所とするとともに、来訪者にも長く記憶されるような存在にする。

宇都宮の LRT 自体を、世界に誇れる魅力的なものにするための方策として、本提案では、花と緑で LRT を包み込み、

- 宇都宮の魅力を発信できる絵になる LRT とする
- LRT に乗りながら、素晴らしい風景、花と緑を楽しめるようにする
- トランジットセンターを市民が集い愉しめる場所とする

ことを考えた。

具体的には、

- LRT の軌道敷きの可能なところを芝生で敷き詰める
- 道路幅に余裕のないところでは、歩道上にフラワーポットやハンギングバスケットなどを活用して彩りを添える
- 幅員に余裕のあるところでは LRT の沿線に色とりどりの花を植える（花壇を作る）とともに可能な場所では桜などの樹木を植えて並木を作る
- トランジットセンターには、それぞれ特徴的な木々を植え、花壇を作り、更に、市民や周辺で働く人々が集える施設を作る
- 沿線の花、木々、花壇、トランジットセンターなどは市民や周辺住民の意見を取り入れながら具体的な計画を作成し、市民や住民、周辺企業などが管理するシステムを作り上げる
- プラットフォームの前後で余裕のある場所に地域住民による花壇を設ける

これらの施策を通じて、交通未来都市宇都宮の魅力を創造し、世界に発信していく。

2 提案の目標

提案の目標は、

- LRT を宇都宮市民（及び芳賀町民）の誇りとなるようにすること
 - 宇都宮のイメージを向上させること
 - 住めば愉快的な宇都宮、選ばれる都市宇都宮を実現すること
- である。

LRT を市民の誇りとするためには、私たち市民が愛着を持てる存在にするとともに、外から訪れた人々から高い評価を得られるようにすることも必要である。そのために、花と緑の中を走る絵になる LRT は大きな役割を果たすと考ええる。

また、市民が愛着を持つためには、市民自らが参画していなければならない。美しい風景を長く維持し続けるためにも、市民が維持管理に対して適切に参画する必要がある。

現在、素晴らしい風景や景観は、SNS などにより世界中に発信されている。宇都宮の LRT の画像を通じて、日本中、更には世界中の人々から注目されるようになる。これにより、宇都宮のイメージを劇的に改善し、住めば愉快的な宇都宮、選ばれる都市宇都宮を実現し、50 年先も輝き続ける都市につなげることができる。

3 現状の分析と課題

○LRT 計画について

● 宇都宮の LRT 計画の概要

宇都宮の LRT 計画は、桜通り十文字から本田技研北門までの 18km のルートが決められているが、そのうち、JR 宇都宮駅東口から本田技研北門までの 15km が優先整備区間として具体的な計画が定められている。19 か所の停留場（駅）があり、そのうち 5 か所がトランジットセンターになっている。



LRT の優先整備区間は、今年度中に着工し、2022 年春の竣工が予定されている。今後、停留場及びトランジットセンターの詳細な計画が策定されることになるが、地域の様々な意見が反映することになるものと思われる。特に、トランジットセンターは、単なる乗換え駅ではなく、地域の拠点としての機能を備えることが予定されており、LRT の魅力を高めるためにも重要な役割を果たすことが期待される。

● 他都市の事例

日本では、現在 17 都市、20 事業者、路線延長 206km で路面電車が運行されている。それぞれ

の都市の基幹的な交通機関として機能している都市も多い。富山市の事例が有名ではあるが、ここでは、花と緑の観点から鹿児島市と熊本市の LRT・路面電車を取り上げる。

- ・鹿児島市の LRT

営業キロは 13.1km。そのうち 8.9km の軌道敷きは芝生化が行われている。また、いくつかの駅では花壇なども設けられている。なお、芝生の管理のため、芝生管理用の車両を導入して、定期的に運行させている。軌道敷きを芝生にした理由として鹿児島市は、緑化によるヒートアイランド現象抑制の効果も挙げている。

- ・熊本市の路面電車・LRT

営業キロは 12.1km で、一部低床車両を導入している。市電「緑のじゅうたん事業」を実施しており、軌道敷き内の芝生化を進めている。



(鹿児島中央駅の花壇・軌道敷きの芝生)



(熊本市電 熊本城前軌道敷きの芝生)

LRT の軌道敷きの芝生化及び一部の駅で花壇等を設けているものはあるが、花と樹木を融合させ、花と緑に囲まれた LRT ということまでは考えられていなかった。更に、トランジットセンターを市民の集う場所にするという発想もこれまでなかった。

○市民による花と緑の管理について

市民の手により、樹木や花の管理をしている事例は数多くあり、市民の花壇を助成する制度も数多くある。

<市民花壇を助成する制度の例>

- ・神戸市市民花壇制度

市民が、公園、街路、広場などで自主的に設置、育成、管理を行う花壇に対して、市が育成管理費用の助成と花苗配布を行う制度。729 か所が認定（平成 27 年 3 月）。更に、区ごとに市民花壇のコンクールも行っている。

- ・川越市市民花壇指定制度

公共の空地など多くの人が目にすることができる場所に花壇をつくり、地域住民に花壇の管理

を条件に、市が指定した花壇。花苗の支給屋花壇を作る資材の提供などを行う。61 か所指定。

- ・北九州市市民花壇制度

多くの人が鑑賞できる場所にある公有地や道路に接している民有地に設置された花壇。花苗等の提供が行われる。

これらの制度は、いずれも、市民の目に付きやすい場所に、自主的に花壇を設け維持管理する場合、花苗等の提供や助成を行うというものである。この他にもユニークな制度として名古屋市の事例がある

- ・なごや花プロジェクト！スポンサー花壇事業

平成 24 年度から行われている事業で、市民・企業・行政のパートナーシップによって、花咲く公園や街並みを形成することを目的にしている。企業や団体に花苗代や花壇管理運営費用等のスポンサー（協賛金）になってもらい、花の植え付けや手入れについてはボランティアの活用を図る。

市民（中学生）が樹木を管理している例として、長野県飯田市のりんご並木がある。

<飯田市のりんご並木>

「飯田の大火」の復興過程で当時の飯田東中学校の生徒たちの提案により生まれたもの。現在まで 40 年間、営々と町のシンボルとして、生徒たちの手で守られ、育てられてきた（並木通りは、大火の教訓から町の防火帯としても機能するように考慮されている）。飯田市中心街に 450m に渡り、立派なりんご並木が整備されており、全国的にも注目され、いくつかの賞も受賞している。



<宇都宮市の取り組み>

宇都宮市においても、市民が花と緑に関わる仕組みが用意されている。また「宇都宮市花と緑のまちづくり推進協議会」が設けられ、様々な取り組みが行われている。

- ・樹木の里親制度

市民、事業者等が、公共施設の既存樹木及び周辺について、簡易で日常的な愛護活動を行う事。路線、区間等を指定し、三年以上管理を継続できる、周辺に住んでいる人を募集。市は樹木の維持管理（剪定や害虫駆除等）、里親となった人の銘板の設置、認定書の交付を行う。

- ・樹木のオーナー制度

市民、団体等が公共施設の植栽に対して金銭を寄付、又は清掃美化活動をしてもらう事業。対象者は宇都宮に住んでいる企業や市民で、樹木の所有権については市に帰属する。維持管理等は里親制度と似ている。

- ・ワークショップ・愛護会等

公園の計画に際して、ワークショップにより地域住民の意見を取り入れ、その後の管理にも地域住民の協力を得ている。河川や公園などの管理に愛護会等も活発に活動している。

このように、宇都宮では、市民が花や緑の整備に対して協力的であることがわかる。花壇や樹木の整備を自らの意思で行うための下地が作られている、と考えられる。

4 施策事業の提案

施策事業として、それぞれの沿線及び駅、トランジットセンターごとに、具体的な計画案とその実現方策について提案する。その前提として、まず、活用すべき花と緑について検討する。

<花と樹木・緑について>

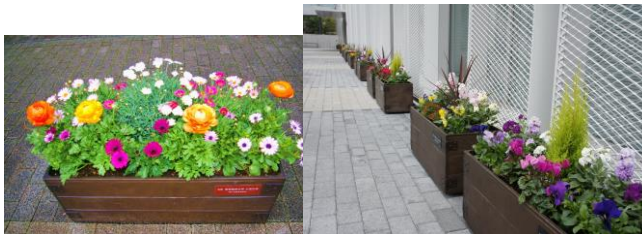
➤ 花の選定

花を選ぶ場合、

- ① 花の大きさ、色、形、香り、花の密集度及び背丈など花自体の特徴
- ② 花の咲く時期と期間、単年草と多年草等の違い
- ③ 日当たりを好むか日陰でも大丈夫か等植える場所の違い
- ④ 水遣りや施肥等の手入れの必要度

などを考慮する必要がある。管理の問題を考えると、比較的育てやすい多年草から選定することが適していると思われる。停留場のプラットフォームの前後で余裕のあるスペースに地元の人の手による花壇を設ければ、プラットフォームで LRT を待つ人にも楽しんでもらえる。なお、スペースの関係などで花壇を設けられない場合は、フラワーポットやハンギングバスケットの活用を考え、それらに適した花の例を検討した。LRT の中で座っていても鑑賞できる背丈の高い花としては、マーガレット・コスモス・ゼラニウム・ガーベラ・ラベンダーがあり、アロマ効果やリラックス効果がある花としては、ウィンターコスモス・カンパニュラアルペンブルー・クリスマスローズなどがあり、トランジットモールごとの土地にあった色合いの花を植える。また、土地によって日の当たり方も違うので、日当たりがいい場所を好む花（特に、マーガレットやコスモス）を植える場所には注意が必要である。

フラワーポット



ハンギングバスケット

➤ 樹木の選定

樹木は、樹形や樹高などの形と日照条件や土壌などの生育条件を考慮する必要があるが、それとともに、花、香り、果実の 3 つの要素を考慮した。また、終点のかしの森公園周辺には見事な桜並木があり、この並木を活かすことも重要である。

香りを重視する樹木としては、白梅を取り上げる。梅は香りと花の両方を楽しめる樹木である。果実を収穫できる樹木としてリンゴと梨を取り上げる。これらはいずれも美しい花を咲かせる木であり、また、栃木県内で数多く栽培されている樹木である。なお、梨の木は芳賀町の木でもある。

➤ 芝生について

軌道敷きの芝生化は、ヨーロッパの LRT ではごく普通に行われている。日本でも、鹿児島市電がほぼ全面芝生化し、熊本市電も多く場所で芝生化している。富山や広島も芝生化している部分がある。これらのことから、管理上も十分対応が可能であると思われる。芝生化は、ヒートアイランド対策としても効果が高いと言われていて、市街地の既存道路に LRT の軌道敷きを設けるところでは可能な限り芝生化する。なお、現在、家が建っていないところや周辺に十分な樹木・緑があるところなどは、敢えて芝生化しないという選択肢もあると考える。

➤ 金網フェンスの利用

軌道敷地内に人を侵入させたくない場所では軌道敷きの周辺に金網フェンスを置き、花を植えたり、ハンギングバスケットをかけることを考える。比較的背丈の高い草花でもフェンスがあれば容易に植えられる。熊本市電では金網フェンスが設けられている箇所がある。

<私たちが考えた各地区のイメージ>

トランジットセンター及び各路線について、現地を調査した上で計画の考え方をまとめた。実際に計画を立案する場合は、地域住民や市民の意見を反映させる必要があるが、どんなイメージがありうるか、私たちが考えた計画のイメージを示す。

○宇都宮駅東口トランジットセンター（色とりどりの始発駅）

駅東口のトランジットセンターは始発駅であり景観的に最も重視する必要がある。私たちは、ここに桜を植えることを考えた。終点の本田技研北門前の通りは、現在素晴らしい桜並木がある。桜で始まり、桜で終わることにより強い印象を与えることができる。また、軌道敷きの周りを花で飾るため、金網の柵を設けてハンギングバスケットの設置や、朝顔などを植えることが考えられる（朝顔で金網をカモフラージュできる）。金網を設ける方法は、軌道敷き内を人や車が往来することを抑える効果もある。ハンギングバスケットは企業等の協力で設置及び管理することとし、統一のとれたきれいな看板で企業名を表示し、市民に認識可能とする。

- ◆ 花の例：軌道敷きを芝生化し、桜を植えることから、花としては色彩のいいものが適している。ガーベラを中心にウィンターコスモスやカンパニュラアルペンブルーを植える。この花は香りがとてもいいので、通勤中の会社員や、学生に元気を与えることができると考えた。花言葉も添えて人目を引くような花壇仕様にすると思われ。

○駅東口からベルモールまで

市街地で周辺にはビルやマンションなどが建っている。歩道は十分に広いが、軌道敷きの周りに花壇などを設置することは難しい。そこで、鬼怒通り（県道 64 号）の軌道敷きは駅東口から全面的に芝生化（4 号線の立体交差部分や横断歩道部分等は除く）し、歩道上の車道側に幅の狭い花壇を設けるか、フラワーポットなどを並べる。更に、ハンギングバスケット専用のポールをたて花を飾る。歩道に花を飾る場合、LRT からの視認性を高めるために、背丈の高い花を採用する。

○ベルモルトランジットセンター（ゆったりできる憩の広場）

ベルモールのトランジットセンターはベルモールの既存施設の利用が前提となっている。従って、新たに施設を設けるのではなく、現在駐車場となっている部分に、四季折々の花が咲く花壇を設けるかフラワーポットを花壇のように並べ、その周りを憩の広場とする。

ここは、道路沿いには木が植えられており、少し離れたところには公園があるので、広場を設けなくてもいいのでは考えたが、公園に行くまでにわざわざ道を渡らないといけなことから、トランジットセンターでゆっくり休め、かつ、LRT の待ち時間に子どもがある程度動き回れるスペースがあったほうがいいという結論に至った。

- ◆ 花の例：フラワーポットを置く場合は、カロライナジャスミンやクリスマスローズが適していると思える。



（ベルモルトランジットセンター）



（平出トランジットセンター）

○平出トランジットセンター（風薫る花と緑の風景）

平出のトランジットセンターは、新 4 号線沿いの現在畑になっているところに設けられる。また、トランジットセンターに隣接して大規模な車両基地が設けられる。

周辺に既存の施設が無く、見晴らしもよく、比較的自由に計画することができる。車両基地周

辺は、樹木を植えることにより周辺との調和を図る。桜並木などで花を楽しめるようにすることも可能であると考えた。トランジットセンター内の緑地を予定している部分には、象徴的な樹木としてリンゴの木を植える。リンゴは洋リンゴと和リンゴがあるが、洋リンゴは栽培が難しく、専門家の方の助けが必須となるため、和リンゴとする。リンゴの木により、花が異なるので、花もできるだけ立派で、色が美しいものが良い。なお、リンゴの木の管理は、地域住民か近くの学校などに任せる。

■ 花の例：周辺に畑が広がっていることか、花としては背丈の高い、マーガレットやラベンダー、ゼラニウムなどを植える。

○下竹下周辺

この地域の周辺は現在畑になっており、農村地帯で家は殆どない。従って、沿線に樹木を植えるか帯状の花壇を設けることが可能。終点の本田技研北門周辺は桜並木があり、駅東口に桜を植えることができれば、この地域の沿線にも桜並木を設け、始点、終点その中間地点の桜並木がLRT沿線景観の象徴としてアピールすることができる。沿線に線上に花壇を設ける場合は、LRTからの眺めを考え、背丈の高い花を配置する必要がある。

○下竹下から清原トランジットセンターまで

LRTの路線沿いには、大きな工場と大学・高校があり、その敷地内には既存の樹木が道路沿いに植えられている。ここは、道路幅員があまり広くないので、既存の樹木を活かすこととする。なお、軌道敷き内を芝生化することは、周辺の緑との関係からも効果が高い、と考える。

○清原トランジットセンター（カフェと香りの花道）

清原のトランジットセンターは清原工業団地の中にある。私たちが調査に行った際に、素晴らしい街路樹が二重に植えられている心地よい歩道があるにもかかわらず、まちを歩いている人をほとんど見かけなかった。工業団地の中には工場の外にゆっくりと休憩できる場所もなかった。

そこで、私たちは、工業団地内の簡易郵便局前に、白梅を植えることを提案することとした。白梅は非常に良い香りがあり、紅梅と合わせて植えることで、花も楽しめる。この場所にはオープンカフェなどの気楽に休める場所を設けるこ

とが相応しい。スペースに余裕があれば花壇の設置も効果的と考える。工業団地内に、素晴らしい香り漂うカフェがあれば、清原中央通りも含めた絶好の散歩コースにもなる。

周辺には日本を代表する製造業が工場を有しており、これらの企業の協力を得て、樹木とカフェ等の管理を行ってもらうことも可能であろう。



○清原中央通り

清原中央通りは、広幅員で立派な樹木に囲まれている。LRTはこの通りの東側の歩道部分を通ることが予定されている。そうすると、東側の樹木の一部が伐採されることになるが、この歩道部分も十分な幅員があるので、伐採された後は、背丈の高い花を軌道沿いに線上に植えることが考えられる。多年生草で、管理に手がかからず、花の咲いている期間が長い色とりどりのコスモス（冬場も咲くウインターコスモスを含む）を植えることを提案する。「コスモス街道」という名

称で、LRT 沿線の名所にすることができる。花の管理については、沿線の工場に依頼することが良いと考える。

○テクノポリスセンター前

テクノポリス前の 69 号線は、幅員も十分あるが、現在街路樹などが十分にあるとは言えない状況である。清原中央通りから突然殺風景な通りに入る形になるので、芳賀の管理センターまでは、軌道敷きの芝生化を行う。更に歩道部分に線上の花壇を設ける。花壇の管理は周辺の工場の協力を得る。

○芳賀管理センタートランジットセンター（五感で楽しむ癒しの場）

芳賀町唯一のトランジットセンター。芳賀町は梨の生産で知られており、梨が町のシンボルツリーになっている。マスコットキャラクター「はがまる」も梨をデザインしたものである。トランジットセンターのシンボルとして梨の木を植える。しかし、梨は栽培が難しいため、近隣の梨農家の協力を得る必要がある。梨を活用して、芳賀町を積極的に PR する場所にする事ができる。工業団地の中にあることから、工場に勤務している人にも憩いの場となるよう、梨のスイーツなども楽しめるカフェを設けるとともに、四季の花を楽しめる花壇も設置する。



○かしの森公園前通り

芳賀のトランジットセンターから終点の本田技研北門までは、素晴らしい桜並木が続いている。宇都宮都市圏でも最も美しい桜並木の一つであり、桜並木をできる限り保存し、また、軌道敷きの芝生化も行う。



本田技研北門よりかしの森公園方面を望む

○さらに魅力的にするために

私たちが考えた各地区のイメージは以上の通りである。これを更に魅力的にするために、これらの花や花壇のライトアップが効果的と考える。宇都宮市の中心市街地では晩秋から冬期にかけて各地でライトアップを行っているが、これを、LRT 沿線に創る花の名所や花壇にも、花の美しい時期に合わせて行う。

また、花壇やハンギングバスケット、フラワーポットは市民や企業の協力を得て整備するものであることから、毎年、市民の投票などによりコンテストを行い、顕彰することとする。それにより、花壇などがより良い優れたものとなり、協力した市民、企業のモチベーションにもなる。

提案の実現のために

提案の実現のためには、地域住民、市民、周辺企業と行政が協働して取り組めるようにする必要があります。市民自らがまちの貴重な資源として LRT を認識し、まちの誇りとして愛着を持ち、広く発信できる存在にすることが重要である。

宇都宮では、LRT の車両デザインや停留場のコンセプト・デザインなどについては、これから市民の意見を積極的に取り込む方向で検討が進められているとのことであるが、LRT の沿線やトランジットセンターの景観デザインなどにも、地域住民、市民、周辺企業などの意見を積極的に反映させ、みんなで創る LRT という意識を醸成させる仕組みを作る必要がある。この場合、花壇等の設置や維持管理も行政や運行事業者の協力を得ながら、市民や沿線企業等が役割分担できるようにすることも求められる。市や町と運行事業者だけで対応するというだけでは、長続きしないし、LRT に対する市民の愛着も強まらない。

幸い、宇都宮では、行政も市民も花や緑の整備に対して、積極的に取り組んでおり、こうした仕組みをより充実させれば、私たちの提案を実現することは十分可能である、と考える。

○市民、周辺住民、周辺企業等の意見を反映させるために

計画案の策定

- 今回私たちが提案したアイデアを活用して、市、町及び運行事業者が、LRT 沿線、停留場及びトランジットセンターについての整備コンセプトと全体のイメージを示す。
 - LRT 沿線の花壇や個別の停留所については、周辺地域の住民によるワークショップによる計画案の検討を行う。宇都宮市で公園計画の際に行っているワークショップの形式などを参考にする。
 - トランジットセンターの計画については、広く市民からの提案を募集するとともに、特に清原及び芳賀のトランジットセンターでは周辺企業からの提案の受け入れも考える
- 計画案づくりに、できるだけ多くの人の参加を得ることが、LRT を身近に感じてもらうためにも重要である。

計画策定方法の例

- ・ 停留所の計画：地域住民を入れたワークショップで花壇の計画づくり。花壇の管理は地域住民。その際、市民花壇の仕組みを使う
- ・ 3つのトランジットセンター（平出、清原、芳賀）：管理も含めた提案を募集する。その際のコンセプトやセンター内の施設等については、市民の意見を集めて提案者の参考にする。市、町及び運行事業者で審査の上、実施主体を決定する。

○花や花壇、樹木の設置と維持管理に協力を得るために

宇都宮で現在制度化されている、里親制度・オーナー制度に加えて、全国で行われている市民花壇の仕組みや、宇都宮の公園造りの際などに行われているワークショップ形式など、多様な仕組みをそれぞれの場所に相応しいやり方で活用する。

今年 9 月に宇都宮市花と緑の推進協議会主催で「まちなかハンギングバスケット大作戦」が実施された。このイベントでは、市民参加で作ったバスケットを市内に飾り、地元の自治会などが維持管理する、という方法がとられた。こうした仕組みを、LRT 沿線、特に、市街地を走る地域に応用することも考えるべきである。

■ 樹木のオーナー制度の活用

オーナー制度は、新たに樹木を植える場合に最も適した仕組みである。八幡山公園の桜でも使われ、多くのオーナーが登場している。沿線に植える樹木や車両基地の周辺に設ける桜並木、駅東口の桜などには、広範囲にオーナーを募集し、清原や芳賀のトランジットセンターなどは、地域の企業等を対象に優先的に呼びかける。

■ 里親制度

里親制度は、周辺に人家や企業があるところに適した制度で、既存の樹木や花壇などがあ

る場合にこの制度を活用していくべきと考える。新たに整備するところであっても、例えば清原中央通で私たちが提案しているコスモス街道などについては、沿線の工場の協力を得て、工場の前の花壇の管理をお願いする（あるいは、オーナー制度を花にも適用する）ことも考える。

- ◆ リンゴの木やナシの木は、管理が難しい面もあるので、オーナー制度を活用して管理費用を賄うことを考える
- ◆ 花壇などについては、右の写真のようにボランティアで維持管理をしているところもあり、こうした活動を積極的に支援していくことも効果的である。



シルバー大学下野支部花愛好会

○持続的な展開を可能にするために

50 年先、100 年先も輝いている都市にするためには、市民・企業と行政・運行事業者との適切な役割分担のもとに協働し、LRT 及び周辺環境を地域の資源として定着していくようにする必要がある。この場合、周辺の学校ぐるみの参加あるいは沿線企業の取り組みなどがあれば、持続的な展開にとって効果的である。

- ◆ 定期的なコンテストの実施など市民の継続的な注目を集められるようにする。注目が集まれば、更に素晴らしいものへとステップアップしていく。
- ◆ ライトアップなどにより来訪者にもアピールできるようにするとともに、周辺の景観と合わせた LRT の存在自体を観光資源として位置づける。この場合、トランジットセンターを「道の駅」類似の「LRT の駅」として売り出すなどの工夫も効果的。
- ◆ 持続的な活動のためには、ボランティアに頼るだけでなく、収益的な事業（カフェの営業等）との組み合わせで維持管理をする。

